

大島郡医師会だより

No.110 2026.7月号

発行

大島郡医師会

奄美市名瀬塩浜町3-10

TEL0997-52-0598

FAX0997-54-0597

印刷 南海日日新聞社

医師会病院
虹の事業所
訪問看護ステーション
訪問看護ステーション
居宅介護支援事業所
グループホーム虹の丘
養護老人ホームなぎさ園
臨床検査センター



奄美群島での新たな 地域医療構想

大島郡医師会
会長 稲源一郎

「団魂の世代」(1947年～1949年生まれ)が75歳以上の後期高齢者となる2025年が過ぎました。これまでの奄美保健医療圏地域医療構想調整会議も2025年問題に向けた調整を行ってきました。当初は各医療機関での病床調節に困難が生じていましたが、重ねての調整会議により一定の調整が図られました。

新型コロナウイルス感染症による世界的流行(パンデミック)は、これまでの社会生活を一変させました。医療現場も入院医療機関のみでなく、在宅や施設での医療・介護体制を含めた、地域ごとの体制の在り方が問われ、各離島での一定の完結可能な医療体制構築も必要性が認識されました。2015年には奄美群島の高度急性期は県立大島病院が担っていました。2026年の予定病床数は26病床(必要病床数78)に増床されています。新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより地域の医療・介護体制などの脆弱性が顕在化し、奄美群島全体で新たな医療体制の調節が求められました。今後予測される新興感染症などを含めた医療体制構築として、高度急性期病床

【表1】2015年の病床数と2026年の病床機能数(予定)比較

	2015年	2025年病床数の必要量	2026年病床機能(予定)	2025年との差異
高度急性期	10	78	24	-54
急性期	1070	373	517	144
回復期	189	472	278	-194
慢性期	448	342	297	45
休棟	59	0		
計	1776	1265	1116	149
介護医療院への転換数			18	

が各島に設けられたことは大きな意義があります。(表1)高度急性期病床の必要量(78床)には足らず、さらなる充実を期待しますが、高度急性期の充足には島嶼では限度があり島外機関との連携が必要となります。一方急性期病床が多く、治療後の回復期、慢性期、在宅施設などへの円滑な流れの体制構築が求められます。

住み慣れた地域での生活を実現するためには、今後は単に予測される必要病床数を目標とするのではなく、各地域、各島での医療・介護体制の構築調整が必要です。まずは地域ごとの訪問医療、訪問看護、訪問介護員を含めた在宅医療の充足度、施設の状態などの評価が必要で、また働き手の確保や人材不足への対応も必要です。現役世代(生産年齢人口)が減少し、医療や介護を支える側の担い手の減少は、すでに問題となっていて、人材確保も協議事項となります。このように今後の地域医療調整会議にはこれまでの医療機関、行政のみでなく、より多くの詳細な情報が求められ、必要に応じて看護、訪問介護員、施設関係者などとの調整協議が必要となります。奄美群島からなる二次医療圏には名瀬保健所管内(奄美本島・喜界島)、徳之島保健所管内(徳之島・沖永良部島・与論島)があります。二次医療圏としては一つであり、地域医療構想としても、高度急性期、急性期、回復期、慢性期の患者の流れを奄美群島一体として考慮する必要があります。

奄美群島内で完結できる医療を目指しますが、疾患によっては完結が困難な症例もあり本土への搬送を含めた医療体制の構築が求められます。県立大島病院を中核医療機関として、各離島で困難な症例はドクターヘリ等を利用し主に県立大島病院に集約し、必要時には本土鹿児島県の医療機関に搬送されますが、疾患、もしくは条件によつては沖縄への搬送も行っています。このような奄美であり、県立大島病院を中核とした地域医療の構築は、本土と離れているが故に他に選択肢がなく、地域医療の骨子を考えることに關しては各機関で共有できています。最終的な目標は本人の意向を優先した望む場所での生活を支える事であり、終の棲家を共に考え、必要な環境整備を整えてあげることです。これまでは精神疾患に關しての調整は無かったが、2040年に向けては精神疾患に關しても同様に地域での生活を支える仕組みを構築する必要があります。

これまで以上に地域力が求められます。地域力は地域住民の自助力であり、互助の互いの助け合いであり、場合によつては共助を利用しつつ、不足する分は公助として提供されます。つまり、これからは地域住民を巻き込んだ行政との連携が必須となります。

以上、連携の強化及び地域力の強化が今後の奄美群島での課題と考えます。大島郡医師会としての課題は、各離島の特に介護状況の把握が困難であることです。各離島、及び各地域の会員の先生方との密なる連携が重要であり、会員の増員のみでなく各地域での理事就任を望んでいます。

令和8年度 第1回定時理事会

令和8年度第1回定時理事会が、5月30日(土)午後6時から医師会館4階ホールにて開催された。嘉川副会長の開会宣言の後、稲会長の挨拶。

「令和8年度の第1回理事会にご出席ありがとうございます。今日の議題としては、令和7年度の各事業所の決算に関する、就業規則の改正や組織図の変更、また、今年度は役員改選の年です。前回の理事会で町田先生から沖永良部地区の理事が交代となる旨の報告がありまして、また、公益法人の法改正で、利害関係のない外部の理事を一名以上入れなくてはならないということ、その承認もごいます。」

地域医療構想については2040年に向けて県からの指針はまだ出ておりませんが、今後は精神科を含め患者さんを地域に帰し、地域で診ることができるよう体制作りを国としては考えているようです。行政と住民も絡んでくることですが、自助と互助、そこからどうやって共助と公助に繋げて地域に帰せるかという話し合いが今後始まってくるのではないかと思います。大島郡医師会としては本島の事は概ね分かるのですが、本島以外の離島の情報が、把握できず各離島の理事の先生からいろいろお話を聞きたいと思っています。

血液備蓄に関しては、新聞にも出ていましたが、昨年9月からA・T・R(血液搬送装置)での対応がスタートしました。台風等によって航空機が2日以上飛ばないことが予測された時に血液を事前にA・T・Rで送ってもらう措置で

すが、まだ実績はないようです。離島側としては備蓄所がよいのですが、今でも生血を使っているようで、今年度就任した鹿兒島県赤十字血液センター長の濱崎先生から「今後議論を進めるにも大島病院での在庫や廃棄率データ、生血使用に至った具体的な情報などを共有させて欲しい」との話がありました。また、A・T・Rの運用と備蓄所の再整備は切り分けて考えていきたいとのことでした。

先日奄美和光園のハンセン病市民学会というのが開催され参加してきました。現在6名の入所者様がいらして平均年齢が87歳とのことかなり高齢化が進んでいるようです。この先入所されてる方が居なくなつた後のことについての話も出ました。歴史的建造物は残すとして、それ以外の建物等の活用について、大島郡医師会にも協力依頼があれば対応していきたいと思えます。その時は皆さんのご意見、ご協力をお願いします。

今回の診療報酬改定ですが、私たち無床診療所には殆どメリットはなく、病院の方は少し恩恵を受ける程度だと感じています。しかし医師会病院では、何よりも働く職員、特に看護師が不足しており、今後どうしても規模を縮小せざるを得なくなる時期が来るかと思われれます。その際どのように対応するのかコンサールの力も借りながらしっかりと検討していきたいと考えています。本日は先生方の忌憚のないご意見をお聞かせください。よろしく願います」と挨拶された後、会長を議長として議題に入りました。

【審議事項】

(1)・第1号議案 令和7年度大島郡医師会一般会計決算の承認に關

する件
(2)・第2号議案 令和7年度大島郡医師会特別会計決算の承認に關する件

(イ) 大島郡医師会病院決算の承認に關する件

(ロ) 介護老人保健施設虹の丘決算の承認に關する件

(ハ) 大島郡医師会臨床検査センター決算の承認に關する件

(ニ) 第3号議案 令和7年度公益社団法人大島郡医師会事業報告並びに決算の承認に關する件

(4) 監査報告

(5) 第4号議案 理事・監事の選任に關する件

(6) 第5号議案 就業規則の一部改正(案)について

(7) 第6号議案 組織図の一部変更(案)について

(8) 第7号議案 第105回定時総会日程について

日時 令和8年6月20日(土) 18時から
場所 大島郡医師会館4階

【報告事項】
場所 大島郡医師会館4階

(1) 各事業所の経営改善に向けた取り組みについて

(2) なぎさ園の令和6年度決算報告について

【審議結果】
第1号議案から第7号議案まで全て各担当から説明の後、原案通り可決承認され、総会に提案することとなった。

第107回定時総会

令和8年6月20日(土) 18時から第107回定時総会が、大島郡医師会館4

階にて開催された。嘉川副会長から会員総数78名の内、出席者(委任状を含む)73名、よって会員総数の過半数を超えており総会の開催成立を宣言。

稲会長が「県内でも医師会員数が年々減ってきている中、大島郡医師会としても会員数を増やすことに注力したいと思っているところです。今年度嬉しいことに新しく2名の方が入会してくれました。会員が増えることによつて医師会としての考えを行政へ伝えることが可能になります。また、国が考えている地域医療構想を含めた地域包括ケアシステムの中で、中核的な役割を果たしていくためにはならないと考えております。」

各地域の学校医なり、嘱託医なり、いろいろな社会基盤、インフラ的役割を医師会の先生方が担っています。が、医師数が減つてくると更に負担が増える可能性が十分あると思えます。例えば耳鼻科健診は、専門の先生が居なくてもどうにかして回さなくてはなりません。

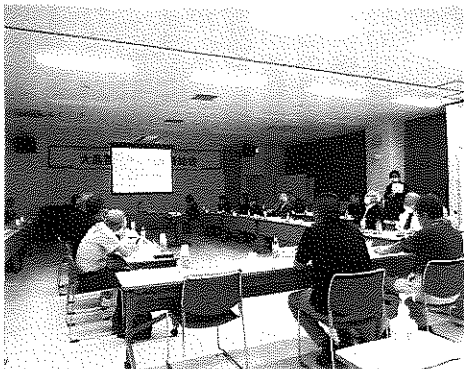
2040年に向けた地域医療構想に精神疾患が入ることに関しては、精神疾患の方を地域に帰すことになつてくるかと思いますが、行政としてその地域にどれくらいのかやパシエがあるのかよく把握してなく、また、医師会としてもその地域にどのようなリソースがあるのかということもよく把握できていません。今後必要となつてくるのは、医師会と行政との連携強化であり、情報共有だと考えています。そうなると思病だけではないでその人の対象となる社会性とか価値観とか、スピリチュアルケアとか、そこら辺の全人的な接し方を医師会としてやらなくては

れた。その後議長に夏目由美子先生を選出し議事を進めた。

【審議事項】【報告事項】

※第1回定時理事会と同じ内容により略(審議結果)

1号議案から3号議案である一般会計、特別会計(医師会病院・虹の丘・臨床検査センター)、公益法人全体の収支決算説明が各担当からあり、原案通り可決された。4号議案から6号議案についても原案通り可決され、4号議案の理事及び監事等の選任に關する件については沖永良部支部の理事が町田実豊先生から同じ和泊町で開業されている福山医院院長の上園敦子先生、今年度奄美支部支部長に就任された奄美市笠利国民健康保険診療所所長の橋口真征先生、外部理事として現大島郡歯科医師会会長の町田慶太先生の3名が新たに選任された。引き続き、副会長の嘉川理事の進行により報告事項の説明の後、奄美看護福祉専門学校校長である向井理事から看護学科の今年度募集継続について報告があり、19時30分に閉会を宣言した。



公益社団法人

大島郡医師会

新役員(令和8・9年度)

代表理事(会長)

稲源一郎(再任)

理事(副会長)

嘉川潤一(再任)

理事(副会長・新任)

津畑修(再任)

理事

向井奉文(再任)

宮上寛之(再任)

朝沼榎(再任)

益田正隆(再任)

野崎義弘(再任)

碩伸一朗(再任)

徳田英弘(再任)

岩城陽一(再任)

郡山昌敬(再任)

上園敦子(新任)

橋口真征(新任)

町田慶太(暫員)

大野郁夫(再任)

岡村誠(暫員)

重信嘉美(再任)

風間正美(再任)

喜入昭(再任)

朝戸末男(新任)

政真太郎(新任)

委員

監事

大島郡医師会 業務執行理事分担表(令和8・9年度)

業務名	担当者氏名	業務名	担当者氏名
会長	稲源一郎	大島郡地域産業保健センター運営主幹	橋口真征
副会長	嘉川潤一、津畑修	救急医療担当理事	津畑修
県医師会代議員	稲源一郎、嘉川潤一	感染症対策担当理事	向井奉文
県医師会予備代議員	津畑修、益田正隆	特定健診担当理事	嘉川潤一
庶務担当理事	津畑修	スポーツ医学・健康教育担当理事	益田正隆
会計担当理事	向井奉文	予防接種担当理事	橋口真征
広報担当理事	郡山昌敬	地域医療連携担当理事	稲源一郎、橋口真征
生涯教育担当理事	野崎義弘	医療情報システム担当理事	稲源一郎
医療安全担当理事	朝沼榎	大島郡医師会病院担当理事	嘉川潤一
医事法制担当理事	向井奉文	虹の丘担当理事	津畑修
医事紛争担当理事	稲源一郎	共同利用施設在宅部門担当理事	稲源一郎
学校保健担当理事	橋口真征	国民健康保険組合会議員	嘉川潤一
母子健康担当理事	徳田英弘	医師信用組合役員	稲源一郎
介護保険担当理事	碩伸一朗	医師信用組合総代	岩城陽一、嘉川潤一、上園敦子
医療保険担当理事	岩城陽一、益田正隆	医師協同組合総代	野崎義弘、碩伸一朗、津畑修
労災・自賠責担当理事	宮上寛之	医師連盟役員(委員長)	稲源一郎
産業保健担当理事	稲源一郎	医師連盟役員(副委員長)	

ハラスメントについての学習会

昨今、大きな社会問題として新聞やニュースでも取り上げられることが多い「ハラスメント」についての施設学習会を6月24日(水)に開催しました。

学習会には虹の丘や医師会病院の職員35名が参加、「ハラスメント防止と快適な職場づくり」をテーマに、お互いを尊重し、能力を最大限に発揮できる健全な組織環境の構築を目指し、ハラスメントの本質や職場における課題について理解を深めました。

研修では、行為者の意図に関わらず相手の尊厳を傷つける行為はハラスメントになり得ることや、受け手の主観を重視しつつも社会通念上の客観性も考慮するバランスの重要性についての説明がありました。また、ハラスメントによる影響として生産性低下や人材流出を招く深刻な「経営リスク」であるというデータも示されました。その他、適切な指導を行うためには、正しいハラスメントの知識、指導とハラスメントの境界線を知ることが大事だということも伝えられ、万が一被害に直面した際の初期対応や、相談者の秘密が厳守される社内相談窓口についての説明もありました。

参加者からは、「自らの言動や行動を振り返る良い機会になった」、「今後も時代の変化に対応した体制作り、組織作りに役立てていきたい」といった感想が聞かれ、一人ひとりが意識をアップデートさせる重要性を再認識する有意義な学習会となりました。



新規開業のごあいさつ

陽向クリニック 院長 野崎 義弘

このたび、令和8年3月末日をもちまして22年間お世話になりました奄美市住用国民健康保険診療所を退職し、名瀬にて「陽向(ひなた)クリニック」を開業いたしましたので、ご報告かたがたご挨拶申し上げます。会員の先生方には日頃より大変お世話になり、心より御礼申し上げます。

私は平成16年4月、公設民営として住用診療所に赴任いたしました。当時人口2,000人(現在1,000人高齢化率5割)、という町唯一の医療機関として、「すこやかで安心して暮らせる地域へ」をモットーに、電子カルテの導入をはじめとする診療の効率化に努めてまいりました。

とりわけ忘れがたいのは、平成22年と24年の二度にわたり経験した豪雨災害です。診療所と自宅が床上浸水し、医療機器も流された自身も被災者という状況の中、ゴムホースを命綱に避難し、孤立集落を訪ねて回った日々を、今も鮮明に覚えております。消防や自衛隊が到着するまでの空白の時間を支えたのは、まさに地域の「結(ゆい)」の力でした。膝の悪いお年寄りをベッドごと運び出す青壮年団、避難所で炊き出しを続ける婦人会の姿に、「自分一人で地域を守らねば」という使命感(must)に縛られていた私自身も、「この人たちのために連携したい」という自発的な願い(want)へと、心の持ちようを変えていただきました。この経験は、後の在宅医療ネットワーク構築や、医師会救急担当理事としての救急プロトコル作成、ドクターヘリ運用、コロナ宿泊施設医療統括に携わる原動力となっております。

こうした公務に重きを置くあまり、住用の住民の皆様への日々の診療がおろそかになっていなかったかという自省の念もございますが、皆様はいつも温かく見守ってくださいました。当時幼かった3人の子供たちと妻も、家族のように受け入れていただき、子供たちはそれぞれエステティシャン、柔道整復師・鍼灸師、そして医師として、奄美で働く決意を固めるまでに育ちました。

今年65歳の節目を迎えるにあたり、子供たちの今後を支えながら奄美全体に恩返しをしたいとの思いから、名瀬末広町アーケード沿いの陽向ビルに「陽向クリニック」を開業いたしました。2階をクリニックとし、AIを活用した画像診断支援や心エコー自動計測など最先端の医療を取り入れるとともに、1階のフットケア(巻き爪・魚の目・外反母趾等)、3階のエステサロンと連携し、予防医療から美容まで一体的にサポートできる体制を整えております。住用診療所には後任の医師も赴任し、安心してバトンを引き継ぐことができました。

住用での22年間で培った「結」の心を胸に、これからは名瀬の地で、そして奄美全体のために微力を尽くす所存です。会員の先生方には、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



第54回「医療功労賞」中央表彰受賞

第54回医療功労賞 表彰式



清原美千代 さん(徳之島町・宮上病院・看護師)

受賞の知らせを聞いたときは、「まさか夢なのではないか」と思ったほど名誉な賞で、驚きと感動で胸がいっぱいになりました。宮上病院に就職して40年余り、振り返れば長いようであっという間の40年でした。これほど長期にわたって仕事を続けてこられたのは、先生方や周りのスタッフに恵まれ、私を支えてくれた職場の仲間や家族がいたおかげだと心から感謝しております。

現在、高齢化が進み、在宅での生活が困難な場合も増えていますが、現場では「難儀でも我が家がいい」と希望される方もとても多いのが現状です。退院後も住み慣れた在宅で安心して暮らしていけるよう、患者様に寄り添いながら、今後も体力の続く限り頑張っていきたいと思います。

昇格人事・介護老人保健施設虹の丘(令和8年7月1日発令)

森 悦朗 介護老人保健施設虹の丘・介護部介護部長兼3階療養棟課課長
(旧職：介護老人保健施設虹の丘・総務課課長)

嘉原 一貴 介護老人保健施設虹の丘・事務部総務課課長
(旧職：介護老人保健施設虹の丘・総務課係長)

城崎 明広 介護老人保健施設虹の丘・介護部訪問介護課課長

新規採用・大島郡医師会地域保健課(令和8年4月20日発令)

立山 瑞歩 大島郡地域産業保健センター・コーディネーター



地域の皆様に信頼される医療を提供

つちもち整形外科クリニック 院長 土持 亨

このたび、5月7日に「つちもち整形外科クリニック」を開院いたしました。開院に際し、多くの先生方や地域の皆様より温かいご支援を賜りましたことを、心より感謝申し上げます。

私は父方で4代目、母方で3代目の医師家系に生まれ、幼少期から医療を身近に感じながら育ってまいりました。父は沖永良部島出身、母は名瀬出身であり、私自身も中学まで沖永良部島で過ごしました。島では、人と人との距離が近く、困った時には自然と支え合う文化があります。そのような環境の中で育ったことが、現在の「地域に寄り添う医療をしたい」という原点になっているように感じています。

福岡大学を卒業後、鹿児島市医師会病院での研修を終え、鹿児島大学整形外科に入局しました。これまで県立大島病院、鹿児島市立病院、阿久根市民病院などで勤務し、外傷診療から慢性疾患、高齢者医療、スポーツ障害まで幅広く経験してまいりました。整形外科は、痛みの改善だけでなく、患者様の生活や仕事、趣味、そして人生そのものを支えることができる診療科であると感じております。その一方で、地域医療の現場では、小さな異変を見逃さず、必要な医療へ適切につなぐことの重要性も数多く学ばせていただきました。

当院では一般整形外科を中心に、骨粗鬆症、関節リウマチ、運動器リハビリテーションなどにも力を入れ、子どもから高齢者まで安心して相談できるクリニックを目指しております。また、地域の基幹病院や近隣医療機関との連携を大切にしながら、地域医療の一端を担っていければと考えております。

まだまだ未熟ではございますが、地域の皆様に信頼される医療を提供できるよう、スタッフ一同誠心誠意努めてまいります。諸先生方には今後ともご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

鹿児島県医師会看護業務功労者表彰

大島郡医師会病院 5階回復期リハビリテーション病棟 朝井 静子 さん



「お母さんついていくよ」そう言って息子が助手席に乗り込み車の中で待っていてくれた夜の訪問看護。道中に聞こえた波の音、暗闇に広がる星空の景色とともに、不安も打ち消され、心強く感じた事が今でも鮮明に思い出されます。患者様との出会い1つ1つが私の励みとなり、看護師としての歩みを支え、見守ってくれた家族の存在があってこそ勤め続けることが出来たと思います。積み重ねた日常の中でこのたび「看護業務功労表彰」に推薦して頂けたことは大変光栄で身の引き締まる思いです。職場の皆様にご心よりお礼申し上げます。今後も目の前の身近な方たちを大切にしながら日々を過ごしていきたいと思っています。

徳之島町・宮上病院 島本 久美 さん

生まれ育った徳之島で医療に従事し、地域医療に携わって40数年、こうして長く続けることができました。今回、看護業務功労者表彰を授かるにあたり、両親や家族、そして職場の方々に深く感謝申し上げます。これからも皆様のご支援を賜りながら、地域医療の発展に少しでも貢献できるよう尽力してまいりたいと思います。

徳之島町・宮上病院 東 美智子 さん

このような栄誉ある表彰を賜り、誠にありがとうございました。看護の現場では、喜びや達成感を感じる場面がある一方で、困難や悩みに直面することも多くありました。しかし、その度に患者様からいただく「ありがとう」の言葉や仲間たちの励ましが支えとなり、今日まで歩み続けることができました。これまでご指導、ご支援をいただいた皆様に感謝申し上げます。

徳之島町・宮上病院 関 実千代 さん

この度、看護業務功労者表彰をいただき大変光栄に思います。今回の受賞は私一人の力ではなく、日ごろからご指導くださる上司の皆様、そしてサポートしてくれる仲間のおかげであり、だからこそ約40年もの間、続けてこれたのだと深く感謝しております。今後も初心を忘れることなく、感謝の気持ちを胸に、患者様に寄り添いながら看護業務に邁進してまいりたいと思います。



左から島本さん、東さん、関さん

与論町・パナウル診療所 嶺島 浩子 さん



このたびは栄えある賞を頂戴し感謝申し上げます。これもひとえに自分を支えてくださった皆様のお陰です。式典での鹿島直子先生のご演説では、力強いお言葉と眼差しがこの先を行く自分の背中を押してくださいました。今後も自己の研鑽を積み重ねながら持てる力を仕事に注いでいきたいと思っています。ありがとうございました。



奄美の薬草

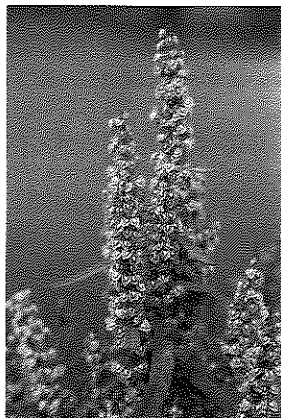


薬草研究

奄美の自然を考える会顧問 田畑 満大

<ギンギンについて>

今回は、ギンギンという植物について話してみます。大勢の方はご存知だと思いますが、この植物を知らない方のために紹介してみます。「ギンギン」という名前は、日本全国国内で語る時の共通（和名または日本名で、通常は和名で）の名前です。この「ギンギン」という和名の由来ですが、諸説があって、正確な語源は明確ではないです。京都の方言に由来するという説や、子供たちの遊びで茎をすり合わせてギンギンという音を出していたことからこの名があるという説が言われているほか、実が詰まってついていて、穂を振るとギンギンと音を立てるからともいわれています。



古い名称は之（し）で、根を薬用にしたいため「之の根」（シノネ）の別名が生まれています。日本の地方によって、さまざまに呼び名が変わり、イヌスイバ、ウマスカンボ、ウマスイコ、ウマスイバ、ウマスイベ、オカジュンサイ、オスシグサ、イチシ、ウシグサ、ウシシーシー、ウマスカナ、ウマズイコ、ウマノスカンコ、シブクサ（しぶ草）、シノネとも呼ばれています。私たちの奄美群島では、各集落でどのように呼ばれているのでしょうか？島単位で調査したものが一部出ております。コウヒル（与論島）、コーピル（奄美大島、与論島）、ユーシャ（奄美大島）、シビー（喜界島）、ギーギグサ（沖永良部島）などがあります。ギーギグサというのは、茎や実を擦ったり振ったりした時の音から付けられたのかも知れません。

前置きが長々となりましたが、利用してみたい植物を間違える例がありましたので、例えば、「アシタバ」だと勘違いをし「ハマウド」とったり、「ボタンボウフウ」を取ったりしている事でした。その為に、まずは名前から、次に植物の形質など調べていく事です。ギンギンは、タデ科スイバ属ギンギンという位置付けです。今度は世界中に通じる名称は、学名と言います。Rumex japonicus Houtta は、ラテン語で表すことが決まります。ラテン語は、ローマ字読みで良いという方もいます。属名 Rumex（ルメックス）は葉の形から「槍、矢じり」の意味し、種小名 japonicus（ヤポニクス）で、日本のという意味を表しています。学名は、属名と種小名の二名法で表しております。最後の Houtta はこの植物を記載した学者の名前です。漢名（中国名）で「羊蹄（ようてい）」と書くのは、花の形が羊の蹄（ひづめ）に似ているからだと言われています。中国名まで

書いたのは、中医学と関係があるからです。漢方で処方される薬（生薬〈主な材料は植物、動物、鉱物など〉をいくつか組み合わせた処方をする）と関係があるからです。形態などについては植物図鑑の写真や解説を参考に、植物そのものを間違えないようにしましょう。

今回も知り得た資料の紹介をしてみます。国土交通省の「奄美群島野生生物資源 web データベース」より。民間療法として、乾燥した根の煎汁を、便秘、胃痙攣、瀉下、胆汁分泌促進、強壮、抗菌作用に用いる。すりおろした生の根は、たむし、水虫、しらくもなどの痒みに用いる。その他、疥癬、湿疹、虫下し、白癬、痔疾に薬効があるとされる。羊蹄。生薬名：羊蹄根（根）有用・有毒成分利用：地下茎と根は、アントラキノン誘導体、アソロン、エモジン、クリソファモール、タンニン、ビタミンA、ネボディン、ムシジン、シュウ酸を含みます。

フリー百貨事典、Rumex japonicus Houtt 属名：Rumex（ルメクス）はラテン語で「槍・やり」を意味する語に由来します。葉の形が槍の穂先のように細長いことから、この属名が付けられたと説明されています。植物学では、この Rumex をタデ科の「ギンギン属・スイバ属」として用いており、日本語では単に「ギンギン属」とされることが多いです。Rumex に含まれる種の一つであるスイバは、和名で「酸い葉」という意味を持ち、葉に酸味があることから名付けられました。花が終わると内側の3つの萼が発達し翼片状となって、中央部が次第にこぶ状に膨らんで、3つの稜のある瘦果を包み、たくさんつける。この翼は心形で縁に微細な鋸歯がある。こぶ状の膨らみは3個で同じ大きさになる。実は熟すと、緑色から褐色へと変化する。瘦果は3稜形で両端が尖っており、茶褐色をしている。

利用：根は緩下剤や皮膚病の薬になるほか、葉を開く前の若芽は食用になる。

薬用：根や根茎には、エモジンやチリソファノールなどのアントラキノン誘導体、アントロン、タンニンが含まれている。アントラキノン誘導体には緩やかに便通をよくする緩下作用があり、緩下薬として古くから知られている。また、タンニンには組織細胞を引き締める収斂作用があり、腫物などの炎症を鎮める消炎薬に用いられている。地上部が枯れ始める10月ごろには根を掘り上げて水洗いして土砂を取り除き、厚さ5cmに刻んで天日干しにしたものが生薬になり羊蹄根（ようていこん）、もしくは羊蹄と称されている。便秘の緩下薬として、羊蹄根1日量3～10gを約400～600ccの水で半量になるまで煎じ、3回に分けて服用する方法が知られている。民間薬としては、生の根をすりつぶしていんきん、たむしなどの皮膚病や、おでき、腫れ物などの患部に《7面へ続く》

直接つける用法が知られている。胃腸が冷えやすい人や、妊婦への服用は禁忌とされている。

食用：早春の時期（2～3月）、葉が開ききる前の鞘に包まれた若芽は日本の東北地方で山菜として食用されており、透明なぬめりがある液体に覆われていて独特の食感があることから方言で「オカジュンサイ」と称されている。利用する若芽は丸く巻き、薄い皮を被って透明な粘液に包まれているため手でちぎることはできず、ナイフなどを使って採取される。若芽は袋状のさやを取り除いて軽くゆでて水にさらして灰汁を抜き、お浸しや和え物、煮浸し、三杯酢、汁の実などに調理される。多少のクセがあるため、生の若芽を塩漬けや糠味噌漬けにしても食べる。シュウ酸を含むため、生食や多食は避けるよう注意喚起されている。近縁種のスイバの若葉は酸味があるが、ギンギシと同様に食用される。

「tnv 基礎医学研究室 清水隆文」の記載された文章も参考にあげてみます。数ある論文の中で、抗真菌作用や、抗がん作用について追及した論文の図の一部を引用させていただきましたが、その他の作用を図の左下に挙げておきました。それは即ち、抗酸化作用、抗炎症作用、胃腸粘膜保護作用、血管保護作用、抗高血圧作用、抗動脈硬化作用、緩下作用（主にアントラキノン類による）、利尿作用、ミトコンドリア保護作用、ネクローシス（病的な細胞死）抑制作用、パーキンソン病などの場合のニューロン保護作用、皮膚における収斂（ポリフェノールによる）などです。

なお、抗真菌作用につきましては、水虫などの白癬菌や、粘膜に棲息するカンジダに対する抑制作用が非常に貴重なものと言えます。そして、抗真菌作用を示す物質の主体はアントラキノン類であると考えられますが、他の成分の存在が相乗的に抗真菌活性を高めていると考えられます。抗がん活性につきましては、結腸がんや直腸がんが研究対象になっているのですが、がん化の全段階である大腸炎が抑制されたり、粘膜細胞のネクローシスが抑制されたり、腫瘍形成が直接的に抑制されたりしています。一般的な抗がん剤が、無差別的に細胞を攻撃するのは大いに異なります。このような機序は、主としてケルセチンなどのフラボノイドによって成されるものであると考えられますが、やはり種々ファイトケミカルの総体であることが効果を高めているのだと考えられます。だからこそ、ギンギシそのものを摂取することが最も効果が高くなると考えられるわけです。

ギンギシを、これまでに紹介した色々な植物と一緒に混ぜて、日常的に摂取したいものです。食べられる植物ですから料理して食べても結構でしょうが、毎日のように食べることは無いはずですが、それならば、やはり乾燥粉末にして他の有効な植物も一緒に混ぜ、日常的にお茶として飲むとか、何かに振りかけて食べるなどの方法が良いのではないかと思います。ギンギシも、「雑草」ではなく「神の恵み」の一つだということになるでしょう。参考に各自で研究を期待します。

【第71回地域包括ケア交流会 ※偶数月第4月曜開催】

テーマ：「奄美市の新しい認知症施策について」

開催日時：令和8年4月27日（月）18時30分～20時 於：大島郡医師会館4階ホール

1. 講話：「『認知症フレンドリープロジェクト』について～当事者同士のゆらいの場“ゆらってほわっとカフェ”を中心に～」

名瀬地域包括支援センター 岩木 千秋 保健師

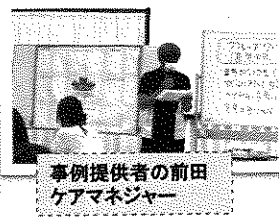
保健師 岩木さん



「行政側から声を出さない！」を合言葉に、当事者の方々の声にじっくり耳を傾け施策へ反映

2. 植木鉢図を使ったグループワーク（事例検討）

事例提供：大島郡医師会居宅介護支援事業所



事例提供者の前田 ケアマネジャー



4月27日（月）に第71回地域包括ケア交流会が開催されました。今回は認知機能の低下がみられる方々を対象にした「当事者同士のゆらいの場“ゆらってほわっとカフェ”」を中心に、奄美市が取り組む認知症施策『認知症フレンドリープロジェクト』について名瀬地域包括支援センターの岩木千秋保健師に講話を依頼し、後半は認知症に関する事例のグループワークを行いました。稲会長が出席している「認知症初期集中支援チーム会議」がきっかけとなりこの企画につながりました。岩木さんは2年前に奄美市が招待した丹野智文さん（認知症当事者のリーダー的存在）と出会ったことで、行政職員が認知症の方々から直接話を聞く機会が少ないことに気づき、当事者の方々と集まる機会を作ったこと、そしてご本人たちが望むことややりたいことを尊重し対話を重ねながら「ゆらってほわっとカフェ」（ネーミングもみんなで決めた）が生まれたこと、そこが安心して過ごせたりチャレンジすることのできる場所となりつつあることなど、そのプロセスを丁寧にお話してくださいました。後半では大島郡医師会居宅介護支援事業所の前田竜一ケアマネジャーが事例を提供し、認知症の方を多職種で支えるためにそれぞれがそれぞれの立場でどのようなことができるか、という視点で意見を出し合い共有しました。

奄美の医療雑話

元名瀬市立奄美博物館長 林 蘇喜男

江戸時代末期の佐藤一斎は「言志録」を公開し、「少にして学べば壯にして為すことあり、壯にして学べば老いて衰えず、老いて学べば死して朽ちず」と語っている。重野安繹は、流謫

- # 編集 後記

子を迎えると長女は十二歳となつていた。妻のウミは、他の男の種を宿して臨月の状況であつた。長女は、父と共に東京での生活を希望し、重野は娘のウヤスを引きとり上京した。


編集後記

が開催され、令和7年度の事業活動および決算が承認されました。また、今年度は役員改選の年であり、定時総会（P2）でも紹介したとおり、新たに沖永良部支部理事として上園敦子先生、今年度より奄美支部支部長に就任された橋口真征先生、更に昨年4月の公益法人制度改革による外部理事の導入については、大島郡歯科医師会長の町田慶太先生（瀬戸内町）が選任され、理事は計15名（うち外部理事1名となりました）。会長は稲源一郎先生が今期で3期目、副会長には嘉川潤一先生（再任）に加え、行政等からの委託業務等の多様化に対応するため津畑修先生を選任し、副会長2名体制となりました。◆ここ数年、奄美市では開業医の高齢化等により廃業が続いていましたが、5月に2名

の先生が新規開業されましたので紹介させていただきました。市街地アーケード内に陽向クリニクを開業された野崎義弘先生、柳町旧政医院にてつちもち整形外科クリニクを開業された土持亨先生です。開業間もなないご多忙の中、ご寄稿にご協力いただきありがとうございます。◆表彰については、40年以上にわたり宮上病院（徳之島町亀津）で看護師として勤務され、定年後も引き続き勤務されている清原美千代様が、読売新聞主催第54回医療功労賞中央表彰を受賞されました。また、25年以上の勤続者に贈られる県医師会看護業務功労者表彰には、宮上病院から3名、パナウル診療所から1名、大島郡医師会病院から1名の計5名が受賞されました。受賞された皆様、誠におめでとうございます◆さて7月1日、奄美地方は梅雨明けし、いよいよ夏本番の始まりです。ただ今年は6月の時点で既に8号まで台風が発生しており、現在はさらに9号が来週にも奄美に接近する予報です。今年は台風の当たり年で、夏の風物詩である祭りやイベントが次々と中止にならないか心配だ。（T・N）